

ひまわり



令和2年2月25日(火)

吉田松陰に学ぶ（その2）



手紙に記して動かさる者は
未だこれ程に少ないなり

吉田松陰

連日、新型コロナウイルス（COVID-19）に関するニュースが流れています。ネットニュースでは、記事の内容に関して、多くの書き込みがされています。その中には、公平な見方で正論を述べているものもあります。しかし、匿名であるのをいいことに、政府などの批判を繰り返すばかりのものや、投稿者の見識を疑うものが散見されます。COVID-19の感染拡大は一大事です。しかし、私たちにとって大切なことは、一人一人が感染拡大防止に協力することです。例えば、こまめな手洗い・アルコールなどでの手指の消毒・十分な休養・マスク着用・人混みを避ける・目や鼻や口を触らない・信頼できる情報を見極め落ち着いて適切な行動をとる、といったことです。また、エビデンスに基づかない無責任な情報を発信しないことも大切です。

吉田松陰は、投獄された野山獄（のやまごく）で、9歳年上の富永有隣（ゆうれん）と出会います。有隣は、大変有能な人物でした。しかし、自分の能力を鼻にかけ、他者を見下すような行為が目にあまり、親類からの申し出で流罪を受けたあと野山獄に投獄されたのでした。そこで松陰は有隣を次のように諭します。

「なぜ、皆をそう敵視するのか。徳を積み、人に慕われるようになれば何事も成し得る」

「自分の価値観をもって人を攻撃してはいけない。一つの失敗でもって、すべてを判断してはならない。相手の長所を取り上げて、短所は見ないようにする。相手の心を察して、結果が悪くても許す。そうすれば世の中、どこへ行っても人は慕って集まってくる」

松陰の教えを受け有隣は立ち直り、牢獄を出てから松陰の片腕となり、松下村塾（しょうかそんじゅく）で活躍したといわれています。松陰の懐（ふところ）の深さを表すエピソードでもあります。

ものの見方・考え方はとても大切です。それは、すべて自分に返ってくるものです。批判的な見方・考え方はとても大切です。しかし、批判一辺倒になってしまうことは、見方・考え方を狭めてしまう危険性があります。このことは、COVID-19問題にも言えることですし、すべての事柄に当てはまることなのです。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

【東住吉中学校】で検索



QR code

東住吉中学校HP → <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=j742691>